



ソーシャルワーカーのつぶやき

衣笠ろうけん 支援相談員 稲葉 洋

横須賀の不入斗体育館付近に、ひっそりとした並木道があります。近くに公園や小学校があり、穏やかな気持ちの良い道です。

利用者の方々とその道の話をしていたとき、「私も、あの並木道が好きだわ」と、うなずいてくださる方がありました。

立ち居振る舞いや、言葉遣いの丁寧な女性で、「ふわっ」とした雰囲気、いつもこの方を包んでいました。戦時中、海外で生活をされていたそうですが、不入斗の並木道が、その頃住んでおられた街並みによく似ているのだそうです。

とても大きなお屋敷にお手伝いさん。それなりに恵まれた生活だったようですが、敗戦と同時に身の危険にさらされ、命からがら日本へ帰って来たという方でした。帰国の途上、財産はほとんど失ってしまい、その後の生活は非常に苦しかったそうです。しかも、腕の切断を迫られるほどの大怪我をなされたこともあったとか。



「あの頃は大変だったわ〜」と、

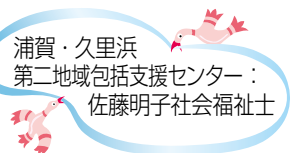
この方は語られました。そのやわらかな物腰とは似つかない苦労話に、返す言葉を失ってしまうこともありました。

現在は別の施設で生活をされています。先日、その方と1年ぶりに再会しました。日当たりの良いお部屋で、ゆっくりとタオルをたたみながら歌を歌っておられました。声をかけると、以前と同じように「ふわっ」とした笑顔で「あら、お久しぶりね〜」と答えてくださいました。施設の生活はとても快適で、毎日楽しく暮らしておられるそうです。すぐには私が誰なのか思い出せなかったようですが、それでも、不入斗の並木道のように穏やかに、私をやさしく包み込んでくださいました。

この方にお会いすると、小さいことに腹を立てたり、思い通りにならずイライラしている自分が恥ずかしくなります。いるだけで周りを幸せな気持ちにできる、この方のように自分もなれたら、と思います。

今回のつぶやきは

浦賀・久里浜
第二地域包括支援センター：
佐藤明子社会福祉士



ちょっと

よみみち

「井出新聞店」

今回は、「井出新聞店」にお邪魔しました。

先々代が昭和15年に佐野町で独立した、創業70年の歴史ある新聞店です。現在は約60名の従業員がいらっしゃいます。配達エリアは、約12,000世帯におよび、そのうち約5,000世帯に配達しています。

新聞店の朝は早く、新聞の納品・仕分けを行い、早い配達員は2時頃には店を出て、3時すぎには配達が終わるそうで、遅くても全ての新聞を5時前には配達が終わるように心がけているとの事でした。

この仕事で大切と感じることは人との繋がりで、「私たちがこの仕事を続けていられるのは新聞を取って頂いている皆様のおかげ」と話し、少しでも社会貢献がしたいとの事でボランティア活動を積極的に行なっています。24時間テレビへの参加やマザー



テレサの理念のもとに使用済み切手の収集による途上国への支援、ボトルキャップ収集による障害者支援、プルキャップ収集による車椅子寄付などを行なっています。

皆さんも是非、ご利用ください。(行谷)



取扱い新聞
読売新聞・スポーツ報知・日本経済新聞・
神奈川新聞・東京新聞・デイリースポーツ

井出新聞店
横須賀市衣笠栄町2-14 TEL. 046-851-0235
定休日…土曜日・日曜日・祝祭日 営業時間…9:00~18:00



編集後記

『三寒四温』これはシベリアの高気圧・低気圧の影響を受け3日寒く4日暖かいという7日周期で徐々に暖かくなることとあります。中国・朝鮮などは顕著に感じることができるようですが、日本では3月の上旬丁度今ごろ大陸ほどではありませんが短期間感じられることがあるそうです。

最近のニュースや新聞では『三寒四温』という言葉よりも『冷夏』『暖冬』という単語ばかり目や耳に入ります。

私が小さい頃には横須賀でも毎年のように雪が降っていましたが、最近は雪を見ることのない年が多いと思います。残念なことですが四季がハッキリしなくなった証拠でしょう。

夏暑く冬寒いと嫌なことですが、日本の春夏秋冬はいいものです。今年の桜はいつ頃咲くのでしょうか、気が付けば梅雨に入っているという短い春を楽しみたいものです。

TM

「衣笠」No.435

2010年3月1日発行

発行人 室谷千英

発行 社会福祉法人日本医療伝道会
〒238-8588 横須賀市小矢部2-23-1
TEL. 046-852-1182 (代表)
郵便振替口座 00220-2-13963

編集 社会福祉法人日本医療伝道会
広報委員会

印刷 (株)ポートサイド印刷

衣笠



社会福祉法人
日本医療伝道会
Japan Medical Mission
<http://www.kinugasa.or.jp>

わたしの兄弟である
この最も小さい者の一人にしたのは
わたしにしてくれたことなのである
マタイによる福音書 25章40節

K I N U G A S A

CONTENTS

- 2 | 理事長就任にあたって 理事長 室谷千英
社会福祉法人日本医療伝道会 役員の改選
- 3 | あの<カイロス>を生かす道へ 特別顧問 阿部志郎
- 4 | クリスマス2009
ネパール国医療協力派遣報告 法人事務局次長 阿部 誠
- 5 | 近隣教会のご紹介 ふれあい広報課 大野高志
今月の聖句 日本バプテスト連盟 横須賀長沢キリスト教会 牧師 富田愛世
- 6 | 衣笠病院グループ2010年度基本方針 専務理事 古屋修身
- 7 | 日韓台キリスト教病院トップセミナー 湘南国際村クリニック所長・衣笠病院内科医長 大友 宣
横須賀三浦地区教会合同元旦礼拝 衣笠ホーム ホーム長 齊藤 学
ボランティア養成講座案内
行事カレンダー
- 8 | ソーシャルワーカーのつぶやき
《ちょっとよりみち》「井出新聞店」



みんなで頑張って貼りました
(衣笠ホーム)

Christmas Memories 2009



シオン保育園

2009年も、グループ各施設でイエス・キリストの降誕をお祝いしました。

ひととき楽しまれた方、喜びを感じられた方、静かに心沁み入る思いを抱かれた方…。

御子キリストの恵みが次のクリスマスまで豊かにありますように。



長瀬イヴコンサート



衣笠ホーム

衣笠病院玄関リース



衣の会キャロリング

ネパール国医療協力派遣報告

社会福祉法人日本医療伝道会 法人事務局次長 阿部 誠

海外渡航歴が殆どなく、語学力もない私が何で？色々悩みぬいたうえで参加させて頂くこととした。ネパールへの知識は、若い頃岩村昇先生の“ネパールの碧い空”を読んだこと、私が病院に入職した頃、眼科の古谷智恵子先生が岩村先生の養子二人を病院構内で育てていたこと、また10年前に勤務していた視能訓練士のマンジュ・シュレスタさんのことと、頭に浮かんでくるものがあった。

12月15日羽田より出発し、関西空港・バンコック経由で約20時間かけてカトマンズ空港へ降り立った。空港ではJOCSより派遣されている楯戸健次郎医師が笑顔で出迎えてくれた。事前に聞かされていたとおりカトマンズ市内では、車、バイク、人、それらの騒音と、乾季のための埃と塵に迎えられ、ネパールでの第一歩が始まった。世界遺産である多くの寺院や王宮は大勢の人々、犬や猿、牛やヤギとともに街の中に溶け込んでいる。

カトマンズより車で5時間ほど国道と山道を走り、派遣先病院のあるベシサハールの町へ着いた。カトマンズの喧騒と空気汚染から解放され、遠くにヒマラヤ山脈を望む活気のある

田舎町であった。

ラムジュン病院の朝は当院と同じように礼拝から始まる。団長の菅谷先生は地元の患者さんの皮膚疾患の診察にあたり、また医師への相談指導を行なった。飛田看護師はスタッフへ手洗いの指導を行ない、小瀬薬剤師は薬局で相談と意見交換を行ってきた。他のスタッフは洗濯の手伝いや、敷地内の清掃の手伝いをすることが出来た。3日間の活動であったが、ネパールの地でキリスト教の病院が地道に医療奉仕活動を行なわれていることに感激を覚えた。また人々の温かい人柄に触れることが出来たのは私にとって一生のうちの素晴らしい経験であった。私たちがネパールの方々には何が出来るのかと考え訪れたが、実際のところネパールの人々から多くのことを学ぶことができた。政治・環境・衛生・貧困と多くの課題を抱えた国であるが、人々のお互いを助け合う関係、子供たちの輝いた眼、斜面のいたるところに開墾した田畑、ヒマラヤの自然をこれからも長く守っていくことを祈りつつネパールに別れを告げた。



飛田看護師による「手洗い講座」



ラムジュン病院の職員と(右端筆者)



菅谷医師による診療

近隣教会のご紹介

日本バプテスト連盟
横須賀長沢キリスト教会

「主は先に立って行かれる」— 会堂正面脇には、そんな言葉が掲げられています。それは伝道開始から30年を歩んで来られたこの教会の、信仰告白そのものであるのかもしれませんが。

京急長沢駅から歩いてすぐ。グリーンハイツが広がる住宅地の一角に、日本バプテスト連盟横須賀長沢キリスト教会はあります。木材を基調とした正三角形の会堂は、どことなくノアの箱舟を連想させます。1978年、横須賀市桜が丘にあった大上高弘宣教師宅で始まった家庭集会在が宣教の発端。その後大津にあった住友重機械工業のゲストハウス「大津クラブ」での礼拝へと移り、さらに1980年に現在地が与えられて、教会が組織化されました。元衣笠病院助産師の宮崎伸子さんがJOCS(日本キリスト教海外医療協力会)のワーカーとしてネパールに派遣された折には、宮崎さんを教会で支えたそうです。



富田牧師はこの教会に赴任して6年。今、教会が“解放”の場として機能し得ているか自問しております。「礼拝にお酒の臭いを漂わせたまま来られる方がいました。やが

てその方はお酒が元で亡くなってしまったのですけれども、わたしはしばらく亡くなったことを知りませんでした。その方にとって教会とは何だったのでしょうか」と富田牧師。「教会に何かを求めてくる人も、長く教会に通っている人も、“あるべきクリスチャンの姿”というようなものからもっと“解放”されなければと思うのです。」

横須賀長沢キリスト教会は今年、敷地内に集会場を新築する予定。「教会が誰にとっても本当に温かな居場所となりますように。」3年前のクリスマスをきっかけに教会へ来だした子どもたちと一緒に、今、その完成を待ちわびておられます。

(ふれあい広報課 大野)



- 牧 師 富田 愛世
 - 主日礼拝 毎週日曜日 9:45 ~ 10:05 第一礼拝
11:00 ~ 12:00 第二礼拝
 - 教会学校 毎週日曜日 10:15 ~ 10:45 (幼児~成人)
 - 祈 禱 会 毎週水曜日 10:30 ~ 12:00
19:30 ~ 20:30
- 所在地：横須賀市長沢 1-31-1 TEL：046-849-7327

今月の聖句

日本バプテスト連盟
横須賀長沢キリスト教会
牧師 富田 愛世

「災いではなく」

主は言われる。わたしがあなたがたに対していただいている計画はわたしが知っている。

それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。

エレミヤ書29章11節



「世の中 暗いニュースばかり みんなの心も暗い」

最近、私たちの教会の第一礼拝で歌われている賛美の一部分です。21世紀という新しい時代に入り、多くの人が漠然と良くなる事を期待して10年たちました。しかし、世の中は良くなるどころか、先ほどの賛美の歌詞にあるように、暗いニュースばかりが流れ、どんどん悪い方向に向かっているように感じます。

この賛美には、もちろん続きがあり、「さあ 今すべてを照らそう イエスさまの愛の光で」となっています。私たちキリスト者にとってはイエスの愛の光が唯一の希望であり、出発点なのです。

エレミヤという預言者は、今から2500年以上前にユダ王国で活動し、当時の社会的不安の中で神の言葉を語られました。それは人々が希望を持ち、喜んだりするものではなく、自国の破滅を予言し、悔い改めを迫るものでした。故に、エレミヤは「嘆きの預言者」と呼ばれているのです。そのような預言者が29章11節で「それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである」と語るのです。

私たちの常識や価値観の中には「バチを与える神」というイメージがあります。そして、そのような神が、この世の中を見るならば、災いがくだされても仕方のないことかもしれません。しかし、神は災いではなく、平安と希望を与えてくださると約束されるのです。なぜでしょうか。それは神ではないので、私たちにはわかりません。ただ、私たちはそのように愛し、見守り、助けようとしてくださる神に感謝すればよいのです。

神の独り子として、この世に来られたイエスは神の国の福音を語られました。それは、貧しい者が幸いで、悲しむ者は慰められ、右の頬を打たれば、左の頬を差し出し、敵を愛し、罪を犯した者を罰するのではなく、その罪を自覚させたうえで赦されるのです。この赦す根拠こそがエレミヤ書29章11節なのです。

神の独り子として、この世に来られたイエスは神の国の福音を語られました。それは、貧しい者が幸いで、悲しむ者は慰められ、右の頬を打たれば、左の頬を差し出し、敵を愛し、罪を犯した者を罰するのではなく、その罪を自覚させたうえで赦されるのです。この赦す根拠こそがエレミヤ書29章11節なのです。